



# 鉄鋼新経営

## 構造変化に挑む

— 足元の環境認識  
納期遅れや品質問題を  
起こさないことが大  
事。当社は2年連続で  
二コソンの優秀調達先に  
選定されており、迷惑  
をかけることのないよ  
う安定的な生産を維持  
していきたい—

「外部環境が非常に  
良くなっており、前期  
(2017年12月期)  
後半にかけて、有機E  
L液晶などFPD(フ  
ラッドパネル・ディスプレイ)関連や半導体  
製造装置向けに低熱膨  
張合金(インバー合金)  
が好調に推移。シリコ  
ンウエハー用の精密研  
磨定盤も増えてきて、  
約10年ぶりに好況を迎  
えている。今期につい  
ても、FPDや半導体  
製造装置関連の好調は  
続く。研磨定盤も前期  
を上回る見通しで、全  
体としてリーマン前の  
好調時に匹敵する見込  
みだ。こうした状況下、

「主要需要家による  
情報に基づき今期は高い  
確度で予測している。  
さらに、19年につい  
ても増産したいという話  
を聞いている。調整が  
入るとすれば、20・21  
年ごろではないか。中  
計の売上高目標はあく  
まで目安なので、上方  
修正したりは考えてい  
ない」

「AIやIoTの進  
展で半導体の需要が大  
きく伸びていくとの観  
測が有力。そうなるこ  
と

「AIやIoTの進  
展で半導体の需要が大  
きく伸びていくとの観  
測が有力。そうなるこ  
と

# 製造実力地道に向上

「国立天文台関連で  
航空関連がある。  
新規分野では、宇宙・  
航空関連がある。  
超高性能インバー合金  
「IC-DX」が、J  
関係団体の紹介も受け

「29年一創立80周  
年に売上100億円

画面が必要となり、F  
PDも伸びていく。方  
式が変わることで需要  
が変化する懸念は常に  
あるが、FPDでは有  
機ELに代わるものは  
今のところ見当たらな  
い。半導体製造装置で  
は、新たにナノインプ  
リント技術が出てきて

AXA関連では耐極寒  
ゼロインバー合金「I  
C-LTX」が採用され  
る方向で話が進んで  
いる。売上高ではまだ  
まだだが、宇宙・航空  
分野の中心である米國  
への進出の足掛かりも  
少しずつ見えている。

日刊産業新聞 18・3・30

「具体的な課題を  
開発における取り組み  
から1人ずつ出す予定  
だ。また私自身が講師  
となり、管理職を対象  
とした講座を6月をめ  
どに開く」

「中計について、  
設備投資の進捗はどう  
か。」

「三重工場は今年1  
月中旬に能力増強を完  
了し、製造能力は月産  
150トに引き上がった。  
本社は、素形材  
事業部として出荷効率  
の向上とピーク対応に  
向けラックを導入し、  
出入庫を効率化するな  
ど取り組んでおり、そ  
の上で雨天出荷場や立  
体倉庫新築などの是非  
を検討している段階。  
年末までには結論を出  
したい。また、19年以  
降を見据えた、生産性  
や品質の向上を目指す  
ための投資を検討する  
ため、今月初旬にプロ  
ジェクトチームを立ち  
上げた」

「三重工場は今年1  
月中旬に能力増強を完  
了し、製造能力は月産  
150トに引き上がった。  
本社は、素形材  
事業部として出荷効率  
の向上とピーク対応に  
向けラックを導入し、  
出入庫を効率化するな  
ど取り組んでおり、そ  
の上で雨天出荷場や立  
体倉庫新築などの是非  
を検討している段階。  
年末までには結論を出  
したい。また、19年以  
降を見据えた、生産性  
や品質の向上を目指す  
ための投資を検討する  
ため、今月初旬にプロ  
ジェクトチームを立ち  
上げた」



新報国製鉄社長  
成瀬 正氏

ながら、米  
国のメーカー  
「会社のモチベーシ  
ョンとして旗を掲げる  
意味合いで設定した。  
逆を言うと、何が何で  
も100億円というこ  
とではない。中身の良  
いものをそれだけ集め  
たいと考えている。そ  
のためには現在の好況  
に甘んじず原点を立ち  
返り、足元を固めてい  
く必要がある」

## 宇宙・航空分野を開拓

「天学など外部研究  
機関と提携して、凝固  
解析シミュレーション  
やインバー合金の材料  
開発に努めている。加  
えて、旧住友金属工業  
OBで技術開発に携わ  
った人を月1回招い  
て、指導を受けている。  
三重工場では作り込み  
の強化に向け設備面  
のアドバースももちろ  
ん。経験豊富な外  
部人材と意欲的な若手  
が化学反応を起し、  
さらなる高みへ一歩一  
歩登っていきける」と期待  
している。また当社の  
研究開発部では、10人  
中2人が大学院で学位  
を取得しているが、近  
い内にもう1人増やし  
たいと考えている」

研究

「人材育成という部  
分では今期、当社とし  
て初めて外部の経営幹  
部育成研修に社員を参  
加させる。本社と三重

(伴野 隆馬)